

るのもいいかなと思う。もしかしたら、こどもが「おっちゃんどっからきたん？」とか聞いて会話が始まるかも知らんしなあ。』と、孤食のこどもたちを救おうという思いから始まったこども食堂も気づけば地域の食堂として成り立っている。

貧困と貧乏は違う。貧乏でも手を変え、品を変え、度量と余裕があれば貧困にはならない。たとえお金があっても出来あえのものだったり、同じ味付けばかりだと好き嫌が多い子どもになってしまうので、こどもに対する関わりをどれだけ持てるかと言うのが大きい。『小学校低学年の本読みはちゃんと保護者にきいてほしい。ちゃんとお母さんが自分の本読みを聞いてくれると、勉強に対する向上心も上がる。そこを忙しいから自分で読んで自分でチェックしときと聞いてあげないと読まなくなる。すると、子ども自身の活字に対する抵抗心が強まる。お母さんには勉強を教えなくても、一緒にいるという愛情を教えてほしいと思う。その中でこどもの勉強しようという気持ちを引き出す事ができる。』こどもは自分に関わってくれているというだけでその人に対する警戒心や信頼度が変わり、それがあるから、お金がなくても貧困にはならないといえる。

また、こどもセンターの中で異年齢の友達、異年齢のおとな、障がいを持った人、障がいを持っていない人、高齢者、外国人などいろんな環境・いろんな人から吸収できるところで育ってほしいという願いがある。それがこどもセンターだけではなく、別の場所でも同じような人間関係を築いていけることを目指している。

キーワード

- ・地域の食堂
- ・見守りの目

- ・こどもの貧困
- ・貧乏

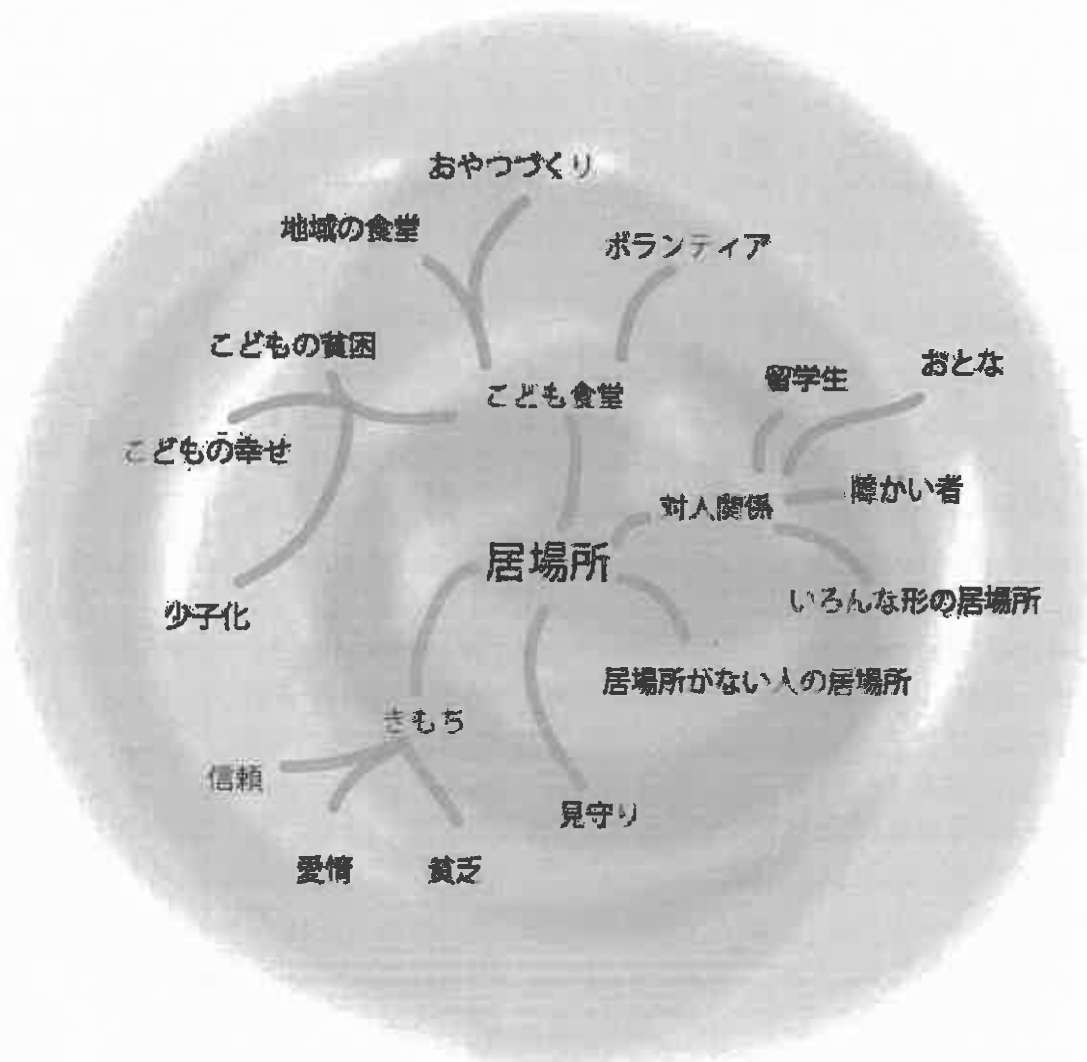


図 4-10 山王こどもセンター 環境構図

3. こどもの里

1977年に釜ヶ崎の子どもたちに健全で自由な遊び場を提供したいとの思いから、子どもたちの遊び場「子どもの広場」として『ふるさとの家』（社会福祉法人 聖フランシスコ会）の2階の1室で始まった。最初は、基本的な生活習慣を身につけることから子どもの生活権の保障、住まいの確保など子どもが生きていくことへの手助けが必要なところから始まり、後に行き場のない子どもや親の緊急避難場所となった。

1980年に「守護の天使の姉妹修道会」がこの活動を引き継ぎ、現在の場所に「こどもの里」が開かれた。子どもたちが思い切り体を動かせる広いホール、料理や食事が一緒にできる食堂、勉強のできる図書室、緊急避難、一時宿泊のための部屋がある。

子どもが安心して遊べる場の提供と生活相談を中心に、常にこどもの立場に立ち、こどもの権利を守り、こどものニーズに応じるをモットーに活動を続けている。

表 4-11. こどもの里 概要

所在地	大阪市西成区萩之茶屋2-3-24
電話番号	06-6645-7778
開館時間	平日 午前12:30～午後7:00 土曜日、日曜日、祝日 午前10:00～午後7:00 (月・木のクラブ活動のみ20時) 春・夏・冬休み 午前10:00～午後7:00
休館日	毎週火曜日及び祝日の代休日 8月16日～18日まで及び1月1日～4日まで
設置・運営主体	特定非営利活動法人(NPO法人)
利用料金	(実費以外の利用料は)無料
活動内容	※大阪市留守家庭児童対策事業(学童保育) ※小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム) ※大阪市地域子育て支援拠点事業(つどいの広場) ※児童自立生活援助事業(自立援助ホーム) ※自主事業<緊急一時保護・宿泊所、エンパワメント事業、訪問サポート事業、中高生・障害児居場所事業等>

表 4-12 2015 年度 こどもの里児童登録数

	児童登録者数		うち「障がい」児・者数	うちひとり親家庭児童数	うち「障がい」児・者数	うち親が外国人
	0-3歳	4-6歳				
幼児	0-3歳	12名	39名	7名	3名	7名
	4-6歳	27名		17名	3名	1名
小学生	1-3年	44名	63名	30名	16名	4名
	4-6年	19名		16名	5名	5名
中学生	1-3年	12名	21名	9名	5名	1名
高校生 (16-18歳まで)	1-3年	9名		4名	3名	4名
18歳以上		7名	7名			5名
合計			130名	83名	35名	20名
割合				63%	26%	15%

(出典) 2015年こどもの里 事業報告書

表 4-13 2015 年度 こどもの里利用実績数

月	開館日数	利用実績数	うち「障がい」児・者数
4月	24日	1065人	226人
5月	26日	1222人	212人
6月	25日	1111人	195人
7月	27日	1254人	201人
8月	25日	1393人	235人
9月	24日	1158人	213人
10月	26日	1137人	216人
11月	26日	1053人	184人
12月	27日	1524人	256人
1月	23日	1106人	204人
2月	25日	1150人	189人
3月	25日	1119人	215人
合計	303日	14292人	2546人
平均	1日あたり	47人	8.4人

(出典) 2015年こどもの里 事業報告書



写真 4-14. こどもの里 外観



(出典) 映画『さとにきたらええやん』HP

写真 4-15. 映画『さとにきたらええやん』チラシ

【調査(7)こどもの里 ヒアリング (1月26日)】

あいりん地区のこどもたちの現状としては、やはりこどもがしんどいものを背負っているのは保護者のしんどさである。学校のいきいき(児童いきいき放課後事業)は遊ぶためのところなので、保護者が抱えている問題まではみれない。その問題をこどもの里だけでみるのではなく、学校や地域の児童館と協力してこどもたちを見守っている。『うちは学校に行きたくないのならうちに来ていいよ、家に居づらいならうちにきていいよ、家に服がないならうちのん持っていいよ。できることがあればなんでもするよって感じですね。』と基本的なスタンスはこどもの里・今池こどもの家・山王こどもセンターも同じであった。

こどもの里は三階が居住スペースという点が他の2つの拠点と違うところである。『しんどくなったときに親と子が離れられる、休憩できることがよかったなと思います。』と話されていた。こどもの里は緊急時のシェルターの場として使われる場合もあり、土日も空いていることから、早朝や夜中に親子が訪ねて来る場合もある。

また、映画「さとにきたらええやん。」や各方面の広報誌等で取り上げられてることもあり、他地域からも来られるケースもある。それに対して『地域のネットワークがしっかりし、HPや映画などで色々な人に知ってもらえて、それ見ていきなり来てくれる人もいる。それでこどもも保護者も救えるならよかったなと思いますね。全部が受け入れられるわけではないけど、できるだけ受け入れたいと思っています。』と答えられていた。

こどもたちの特徴や初めて施設を見学に来た時に感じたことは『はじめて里に来たときは自由、人懐っこい、他人との距離感がない・わからないってのは感じた。さみしいというのもあると思う。女の子で何才になっても大人の男の人のひざの上に座ったりとか、同世代の男の子との距離感がわからなかったり。そういうことに気づいたら、その行動によってどういうふうに周りに思われるかなどを伝えます。あとは学生時代に出会ったフィリピン、東南アジアのこどもたちに似てるなと思った。目がキラキラしてた。些細な事でも喜ぶし、些細な事でも怒るし、人間らしいなと感じた。』と話されていた。しんどいことをかかえてるこどもの中には意地悪したり、大人を試すような行動(試し行動)をする子もいる。そこでその理由とかとしっかり聞くことが大切で、この子との関係性を築くことで見えてくるものがあるという。

キーワード

- ・地域と協力体制

- ・緊急シェルター
- ・早朝、夜間

- ・さとにきたらええやん(映画)

- ・地域のネットワーク

- ・人懐っこい
- ・他人との距離感がない

- ・試し行動

- ・関係性を築く大切さ

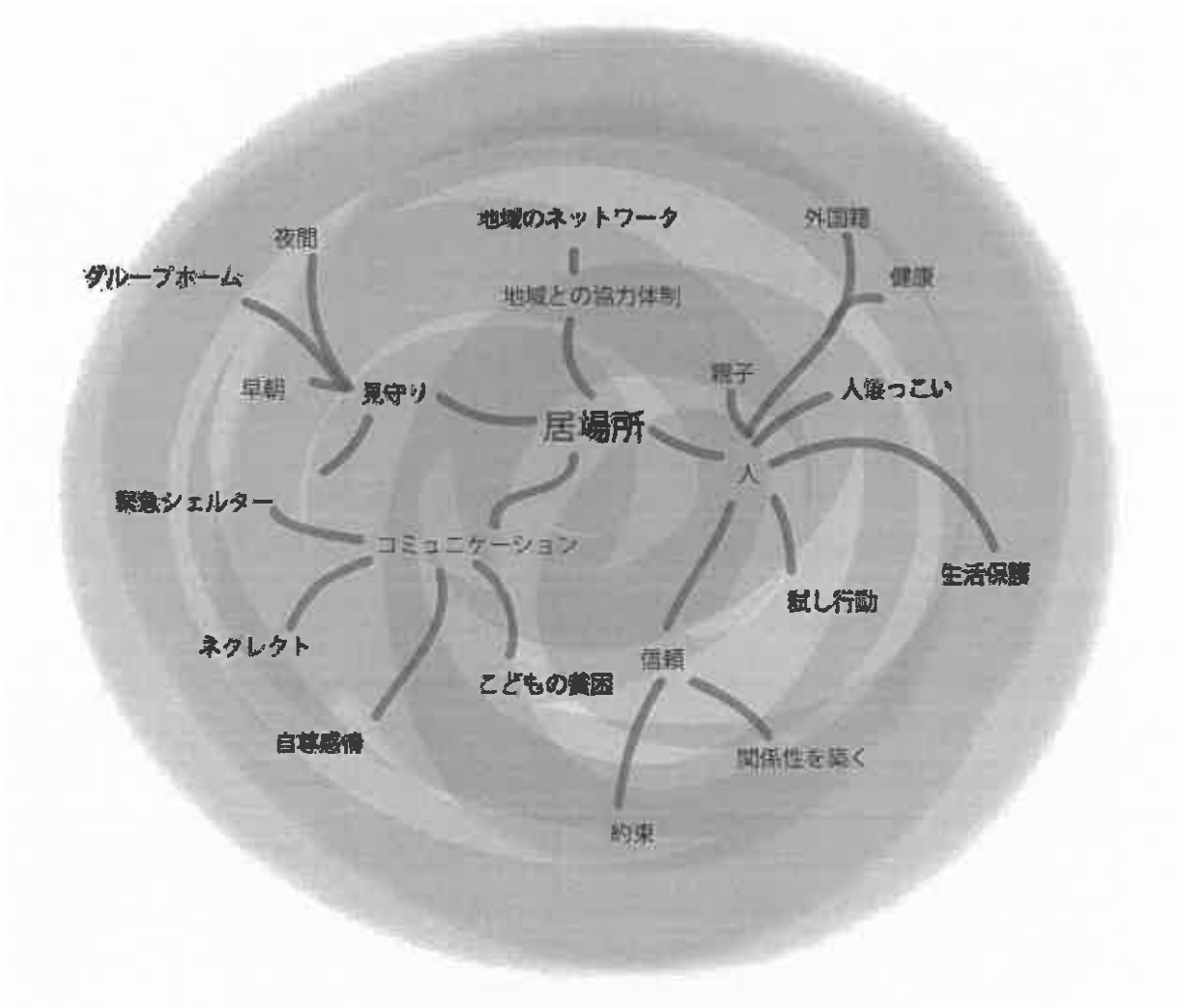


図 4-16 こどもの里 環境構図

4.わかくさ保育園

わかくさ保育園は自主性や自発性を発揮すること、自分らしく生きること、経験を共有できる仲間を持つこと、自分を表現することを目標に掲げ、一人ひとりの自主性や自発性を大切に創造性豊かな、自由でのびのびした保育を行なっている。子どもたちの「今」を大切にし、意欲的な遊びをとおして感性豊かな人格が育ち、その中で感謝の心や、他人の気持ちを思いやるやさしい心が育つ保育を目指している。対象年齢は0才から6才で、卒園後も遊びに来てくれたりと、この地域の居場所の一つとして挙げられる。

表 4-17.わかくさ保育園 概要

所在地	大阪市西成区萩之茶屋2-9-2
電話番号	06-6633-2965
利用定員	79名
対象年齢	0～就学前児童
保育時間	午前7:30～午後7:00
設置・運営主体	社会福祉法人石井記念愛染園
開設	昭和45年4月1日
保育の特色や事業	<ul style="list-style-type: none"> ・自由保育 ・障がい児保育 ・自然保育 ・あおぞら保育 ・子育て相談 ・延長保育



写真 4-18.わかくさ保育園 外観

【調査(8)わかくさ保育園 ヒアリング (12月26日)】

このまちの世間からのイメージはどうか、以前からとの変化はあるかと尋ねると『確かに、このまちに対するイメージはやはり厳しいなというのは印象というか、だいぶとハードルは下がってきてるかなと思うけども、現実が変わっていないというか。』とおっしゃられていた。話を聞いていくと、西成区内でも待機児童がいる中で、うちだったら空いてますよに対してうちだったらいいですわ。とお断りされることもあるようだ。しかし、実際にこのまちに来てみないとわからないことはたくさんあり、最初第一子を入れるときは嫌だったけれど、第二子三子もやっぱりここがいいときてくれる人もいるようだ。それはこのまちを知ったからこそであって、知っているのと知らないのでは大きなギャップがある。他の保育園に行けなかったから来たというきっかけが多い中で、昔通ってくれていたこどもが保護者になって帰ってきてくれることが少し増えたのはありがたいとおっしゃられていた。このような経験による地域の魅力発信の循環が生まれることは、職員にとっても地域にとっても良い影響を及ぼしている。

最近では外国人国籍のこどもが入園するケースもあるようで、そのコミュニティの中で保育園の情報を共有してもらえると、わかくさ保育園自体が彼女たちの居場所になるのではないだろうか。『地域の中には生活の課題を抱えている親子もいるので、いろいろと話を聞きながら他の協力者に繋げてたりする、ソーシャルワーカー的な役割がある』とおっしゃっていた。これぞ地域でこども達を守っていく形の実現である。生活に困っている外国人の方や課題を抱えた親子のSOSのサインに来づけるような、彼女たちがSOSを出せるような見守り体制があるように思えた。これは、意図的に創り出したシステムや計画ではなく、「いざという時に強いまち」となっていく中で身につけた助け合いの心である。

Aさんがわかくさ保育園に来たのは、今から19年前である。以前は南港の保育園に4年間勤めていた。異動で現在のわかくさ保育園に来てみて、こどもたちの違いとして感じることは、以前勤めていた保育園のこども達は周りを見ながら生活する、親の顔を見る、先生の顔を見る、ここはこうでなければならぬみたいな世間一般的な良い子と感じたようだ。しかし、現在の保育園のこども達は、割と素直に自分の気持ちを表現する子が多いようだ。すぐに近寄ってきたり、抱っ

キーワード

- ・まちへのマイナスイメージ

- ・地域の魅力発信の循環

- ・外国人国籍のこどもが入園

- ・ソーシャルワーカー

- ・いざという時に強いまち

- ・素直に気持ちを表現する

こを求めてきたり、人の話がなかなか入らなかったり、すぐに言葉ではなくて手が出てしまうなど愛情に飢えていると感じるところも最初に来た時はあったようだ。例えば、自宅にお風呂がなかったりや料理をする場・機会がない家庭のこども達にとってはそれが当たり前になるから、ご飯を作ることや清潔にするってなんだろうというところからこどもをたちをサポートしていく。現在の幼児教育において、文字を知っていたら偉い、英語を今のうちから学習するなど自尊心が形成される前から行われる「上からの教育」がどれだけでできているかで、大人や世間は価値を感じる傾向があるようだけれども、それらの教育と並行して、本来子どもの時に体験できる人間としての経験のようなことがしっかりと築かれていくことが今のこども達にとって必要なのではないかと感じる。

また、0、1才から入園できることから小学校とほぼおなじの約6年間こどもたちと関わるということでその分同じ年数保護者とも関わることになるので、保護者とたくさんコミュニケーションを取り、こども・保護者・保育園のバランスを保っていくことも必要だと感じた。

『このまち特有の労働者・生活困窮者が集まってくるまちにはいろいろなネットワークがあるからこそ、強みが活かされるし、その機能ってすごく大事だから普通のまちになることによってネットワークがなくなってしまうというのは違うかなと思う。そういう意味では誰でも住めるまちみたいなのに、子どもというキーワードが少なかったりするのかなと思う。そこに子どもや家族みたいなのが加わっていけるようなまちに変わっていったらいいな。』

「普通のまち」というと労働者排除のようなイメージがうまれてしまうかもしれないが、きっとそういうふうになってしまうと対立関係が生まれるだろう。しんどい人たちが集まって、しんどいけれどもここで生活することによって何かしらの安心、安定を築けて慣れさせてくれることがこのまちの重要な機能である。現在では外国人移住者も多くなっている中でそのような強みを活かし、お互いが共存し合えるまちであると言える。

キーワード

- ・当たり前
- ・保護者とのコミュニケーション
- ・生活困窮者
…最低限の生活をおくることが厳しい状態の人
- ・普通のまち
- ・労働者排除
- ・安心、安定

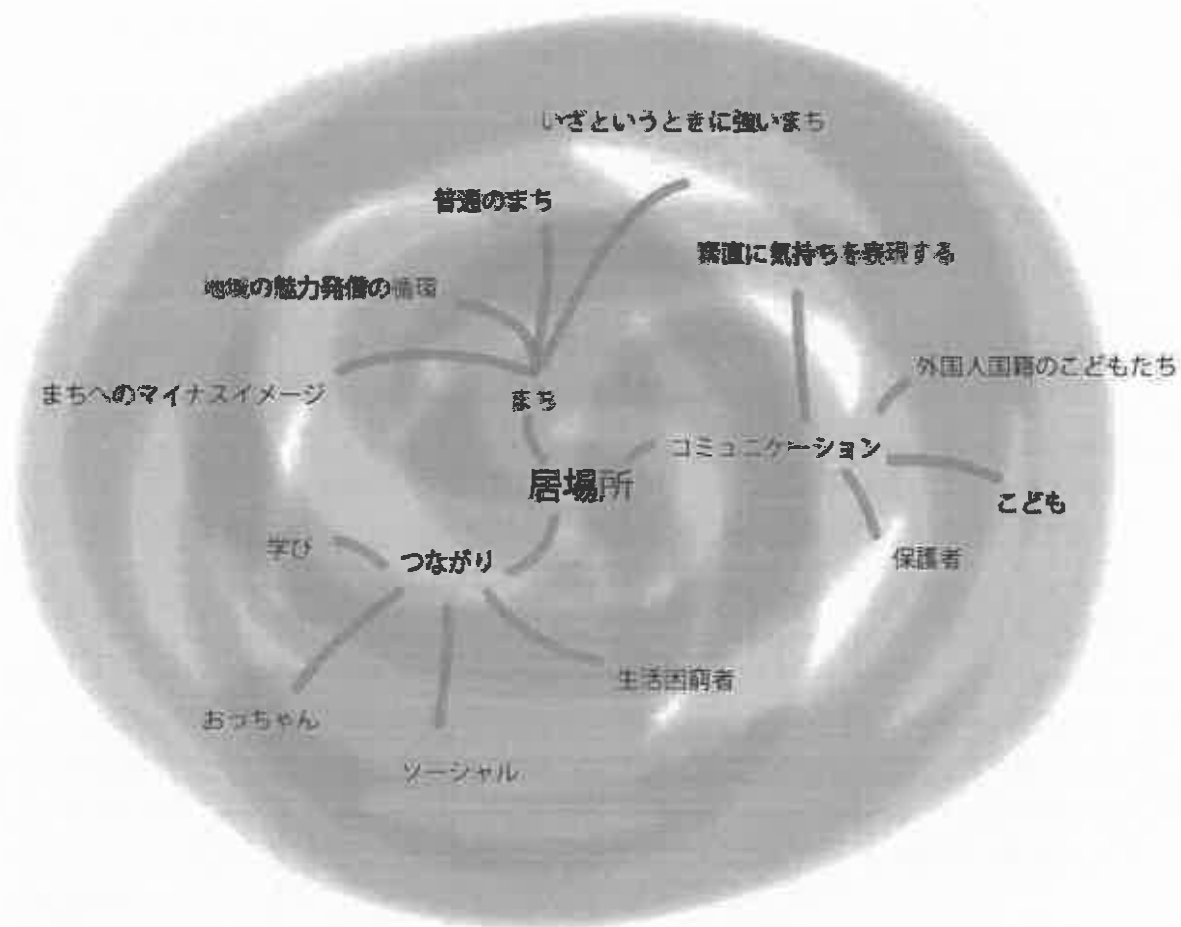


図 4-19 わかくさ保育園 環境構図

4-3. 小中一貫における地域学習中に見るこどもとまち

いまみや小中一貫校では、地域学習の年間指導計画や各学年の目標を立て、これまでの小学校と中学校の総合的な学習の時間における取り組みを生かしつつ、身近な地域素材を活用した体験活動や地域の方々との触れ合いを通して、9年間の学びの連続性を踏まえた探究的な学習、協同的な学習を行うことができるカリキュラムを取り入れている。あいらりん地区に学び、あいらりん地区から発信することで地元へ愛着と誇りをもち、未来に向かう児童生徒を育成することができると考え、本テーマを設定した。

下記は小学6年生の一年間のプログラムである。『自分たちの地域の未来についてイメージし、まちを良くする活動の提案、発信活動を通して、地域と主体的に関わろうとする。』という学年の目標をもとに作られた。

表 4-20 地域学習年間指導計画（平成 29 年度 6 年生 計画案）

月	単元名	教科	学習内容/目標	つながる人・団体
5	にしなり新名物を作ろう	総合 図工	今まで学習してきた地域の良さを活かしたにしなり新名物を考える	
6	にしなり新名物を作ろう	総合 家庭 科	候補作をグループで改良し、プレゼン	保護者、地域の宿泊業の方、さむきや、もぐらや、しんご西成さん、ありむらさん等
7	にしなり新名物を作ろう	総合 国語	地域の人と名物を完成させる	保護者、地域の宿泊業の方、さむきや、もぐらや、しんご西成さん、ありむら潜さん等
8	にしなり新名物を作ろう	総合 図工	英語で地域の良さを紹介し、名物を売る	宿泊施設 地域の祭り JR 新今宮駅構内
9	まちの未来を考えよう	総合	まちづくりの様子を知り、まちの未来のイメージをもつ	しんご西成さん、ありむら潜さん
11	自分たちができることを考えよう	国語 総合	地域の良さ、地域の課題について情報整理し、プレゼン	
2	ようこそ！先輩！	総合 道徳	中高生を招き、西成の問題について考える	地域の先輩
3	考えよう！自分・家族・地域	総合 学活	7.年進学にあたって家族や地域との関わりについて考える	地域の先輩

9、11月に行われたまちの未来を考えようというテーマの地域学習は、実際に新今宮のまちづくりに関わる方々からお話を伺って、自分たちにできることを考えたり、他地域のまちづくりを学び、自分の地域と比較して、自分の地域で活用できる場所は何か等検討し、班に分かれて新今宮の未来についてプレゼンテーションを行なった。こどもたちは自らパワーポイントで要点をまとめ、発表を行なった。

表 4-21 6年生 まちの未来を作ろう

月	単元名	教科	学習内容/目標	つながる人・団体
9	まちの未来を考えよう	総合	まちづくりの様子を知り、まちの未来のイメージをもつ	しんご西成さん、ありむら潜さん
11	自分たちができることを考えよう	国語 総合	地域の良さ、地域の課題について情報整理し、プレゼン	



資料 4-21 6年生が作ったパワーポイント 表題

西成愛してPROJECT
～悪い誤解を解きイメージUP～

誤解を解いて西成のイメージアップを図るプレゼンテーション

西成clean & art プロジェクト

未来のキレイな明るいまちに近づくための提案、プレゼンテーション

西成の抱えている問題は...

西成の本質の良さが隠され、同じことが他区に誤れ誤解をされている

↓

「誤解を解く」

可憐→安心
可憐→こわい

→悪が

それが市長のイメージ

それが西成に住んでいる人のイメージ

西成区民とその他大阪市民の西成に抱いているイメージの違いを示す。

アイデア5. アイデア2~4のことを 労働者の仕事にする



まちをキレイにするためのアイデアを考労働者の仕事にする循環型社会の提案した。

多くの人から西成を身近に感じてもらい、
親んでもらえる町

そのためには...(イメージUPを実現するには?)

- ①おじさんの問題解決。
- ②海外へのメディアアピール。
- ③冊子を作る。

目指したいまちのビジョンを提示し、そのための対策を考える。

自分たちにできること

・「ボイ捨て」「立ちトイレ」の禁止ポスターを作成し、多くの人に知ってもらう

現在、自分たちにできることはなにかの提案した。

資料 4-22 プレゼンテーション内容

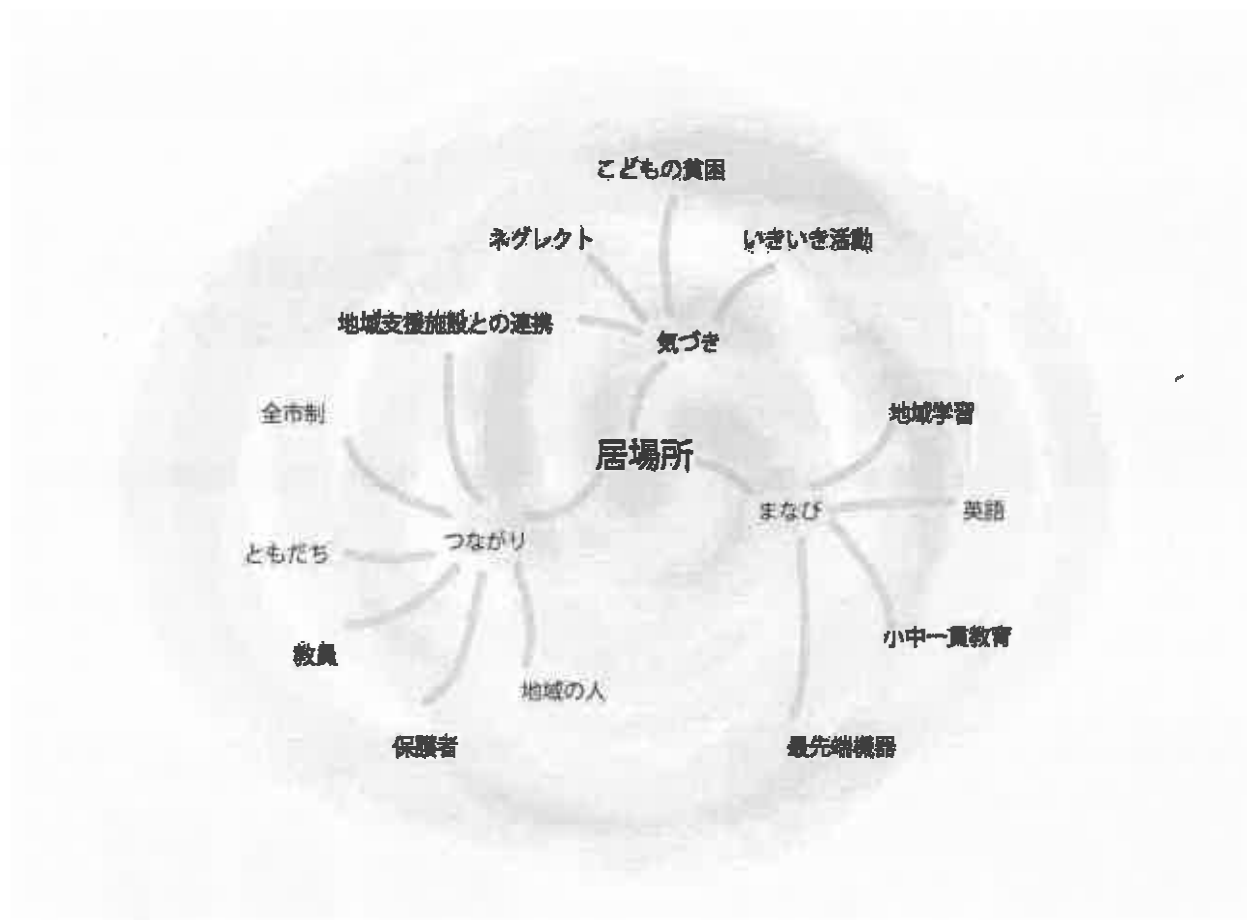


図 4-23 いまみや小中一貫校 環境構図

4-4.小括

あいりん地区の児童館・保育園にヒアリングし、まちや子どもたちについての意見を集約し、その施設ごとのエピソードや出来事をまとめることで地域の子ども支援施設の多様性を確認することができた。

各施設に多様な受け皿があり、それぞれの個性というよりも要素は同じだがそこで出会う人、出来事が様々である。個人は居場所の選択、選択の自由を与えられ、自分にあった居場所の形を見つけ出すことができる。

なにかしんどい状態、どうしようもできない状態であってもどこかしらのカテゴリーに引っかかるような、広範囲に緩やかなネットワークが存在する。

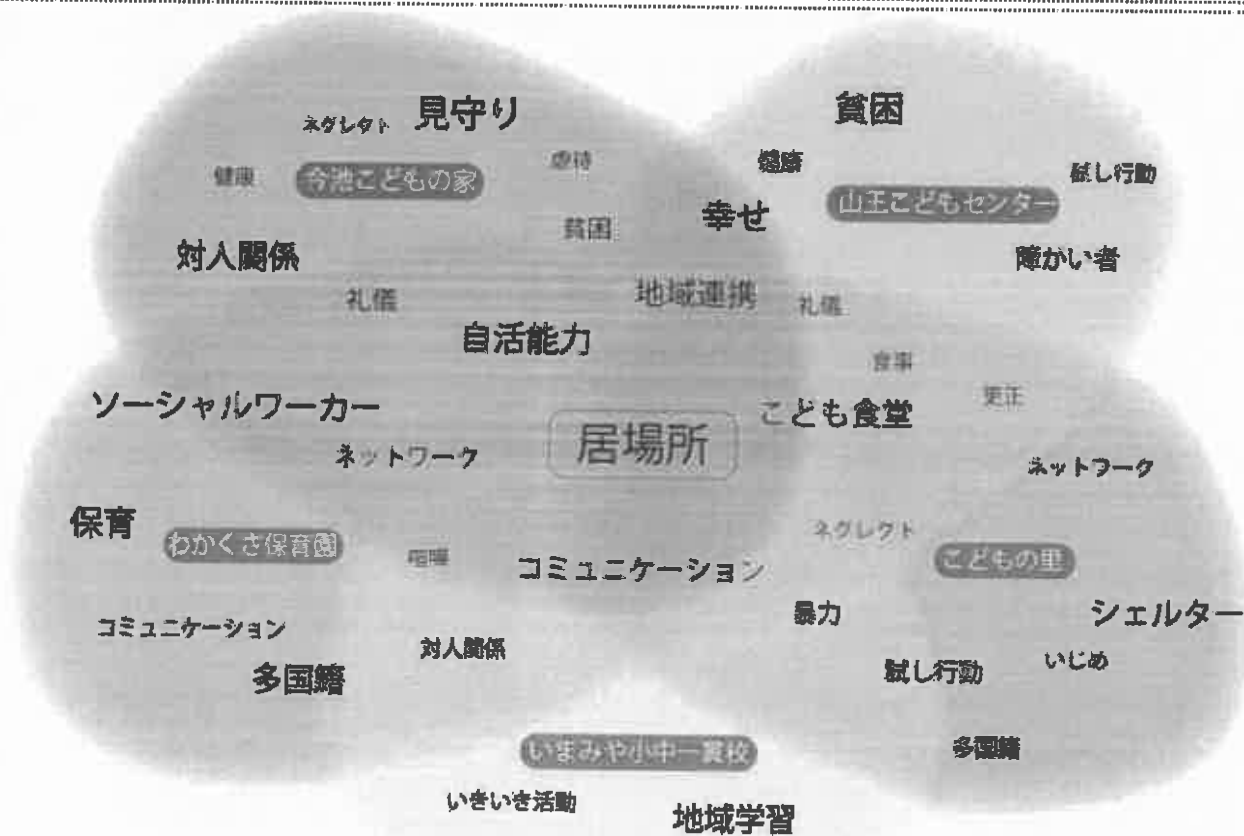


図 4-24 子どもをめぐる施設の環境構図

五章：まとめ

五章：まとめ

5-1. 総括

今回の調査では「こどもの居場所」について、こども・保護者・教員・施設それぞれの目線から分析を行なった。

3章では、いまみや小中一貫校に通うこどもたち、その保護者、教員にこどもの居場所やまちについてのアンケートを行ったところ、それぞれの特徴が表れた。

こどもは学年によってまちのイメージが異なり、低学年はまちに対してプラスな意見が多く、高学年に上がるにつれてまちに対してマイナスな意見が多く上がった。また、今後なしてほしいまちとしては地域学習で学び、防犯・防災や地震に対して意識が高まっているのか、犯罪のない安心安全なまち、地震に強いまちが全体として上位に上がった。

保護者は校区内からこどもを通わせている人と校区外から通わせている人でまちに対する意識の差が表れた。特に、一貫校周辺の公園の課題については、校区内から通わせている保護者に比べて校区外から通わせている保護者の方が関心が薄い結果となった。

教員はこれからの地域学習やこどもの居場所づくりについて、地域との根強い連携を求めていることがわかった。

4章では、あいりん地区のこども支援施設にこどもの居場所やまちについて尋ね、アンケートではわからないエピソードを聞き出せた。各施設こどもの見守り体制や一人一人のケースに対応する受け皿があり、地域に幅広いケースに対応できる居場所が点在することにより、機能ごとで居場所を制限されずにこのまちの強さが見えた。

こどもの好奇心旺盛で意欲的な姿勢や教員の地域学習への意識、さらには見えないところで無数の繋がりができ、まちで個人一人を守っていく多様な受け皿。これらが親がしんどくても生きていける、家以外の居場所を見つけ出せる、このまちだからこそその強みである。

また、こどもたちの選択としては複数の居場所の要素がある。こどもはこどもなりの対人関係を育む場や一人になって落ち着ける場などの様々な要素をもとめているのであり、それは一様ではない。なにかしんどい状態、どうしようもできない状態に陥ったとしても、何かのカテゴリーに引っかかるような、広範囲に緩やかなネットワークが存在する。

明確に段階的にセグメントされた居場所ではなく、人それぞれに合った緩やかで複層的な空間がまちの人たちによって彩られている。これらの「こどもの居場所」を見たとき、「いざというときに強い」「こどもの声が聞こえる」まちづくりにおける一つの手がかりとなるのではないだろうか。

5-2.参考文献

- ・内閣府 高齢社会白書平成 27 年度版
- ・総務省総務局 年齢（各歳），男女別人口—総人口，日本人人口（平成 22～26 年 10 月 1 日現在）
- ・石上典子 1992 年 敏貧困地区の住環境
- ・中村和昌 2012 年 釜ヶ崎における単身高齢者の地域居住および地域資源ネットワークに関する研究
- ・西成区 「数字で見る西成区」
- ・2010 年度総務省構成調査
- ・西成区 平成 27 年度西成区統計情報
- ・山内良太郎 2014 年 課題集積地域における異主体間の協同に関する実践的研究—釜ヶ崎におけるまちづくり協議体を事例として—
- ・大宮風香 2016 年 地域施設の複層の利用にみる社会生活圏形成に関する研究—大阪市西成区釜ヶ崎を事例として—
- ・大阪市立あいりん小中学校 1969 年 あいりんの教育 —第 7 年の歩み—
- ・定点観測「釜ヶ崎定」刊行会編 1999 年 点観測 釜ヶ崎—定点撮影が明らかにするまちの変貌
- ・子どもの貧困白書編集委員会編 2009 年 子どもの貧困白書 p152-p153